

1.調査報告概要表

作成日 平成22年3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3470104138
法人名	医療法人社団 博寿会山下医院
事業所名	グループホーム博寿会ほほえみ
所在地	広島市安佐北区口田1丁目14-10 (電話)082-843-1011

評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	734-0007 広島市南区皆実町1丁目6番29号
訪問調査日	平成22年2月23日
評価確定日	平成22年3月25日

【情報提供票より】平成22年1月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 08 月 01 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.4 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	600 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(1月30日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.3歳	最低 77歳	最高 96歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山下医院 ・ 横畑歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、美しい田園風景の中、JR芸備線・安芸矢口駅から徒歩1分の位置にある。運営母体の医療法人の病院(内科・外科・腎臓内科=人工透析・リハビリテーション科)に隣接しており、医療連携のホームとしての強みを活かした運営を展開し、利用者にも家族にも安心感と住み心地の良いサービスを提供している。開所時より、家族の声と力を活かして一緒に、介護を乗り越えるプランを作りながら、また全職員と家族がケアの目標を共有されており、介護の質の向上に向けての絆と連帯感の強さが伺えた。職員研修も法人の体系的なカリキュラムの中に組み込まれており、21年度はホーム職員の中から2名の介護福祉士も誕生し、今後のより質の高いケア技術の展開に大きな期待がかかる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善事項(ホーム独自の理念の作成・地域とのより密な交流・運営推進会議への地域代表者の出席)を職員全員で把握し、運営母体の運営方針との整合性を図り、常によりよいケアサービスの提供に結びつけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が、この外部評価の意義をよく認識して、各々自己評価を行い、それをみんなで持ち寄り、未達事項の抽出等、管理者が集約し今回の自己評価としている。また、全職員の自己評価の結果を丁寧にファイリングし、次の改善に活かす体制を維持している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>管理者、および関係職員が地域に積極的に働きかけ、地域密着に即した会議としている。特に、利用者家族の参加率が高く、毎回全員に近い参加者数である。年間カレンダーに前もって開催日を決め(奇数月の第4火曜日)、家族もこの会議を年間の生活リズムの中に組み込んでいる。討議内容も、苦情内容、転倒事故、外部評価における改善指摘事項など包み隠さず情報開示し、出席者全員で情報の共有を目指している。討議内容の議事録も全家族、および関係諸機関にすべてフィードバックしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>上記にも関連して、日々家族とのコミュニケーションがうまくとれており、家族の意見・苦情・不安事項も積極的にくみ取り、「家族も最も大切なスタッフの一員」として、家族と共に解決する運営方針を貫いている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営母体の医療法人は、この地で長い歴史を持ち、このホームも町の一住民として、町の人情に溶け込んだ自然な形で地域との交流を深めている。今回、ホームの管理者が認知症アドバイザーの資格を取得したことに伴い、地域包括センターと連携して民生委員を始め地域向けの認知症の正しい啓蒙活動を展開する取り組みを進めつつある。また、併設の医療デイケアと共同で中学生の職場体験の受け入れなど地域との連携活動を進展させている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念『やさしさを大切にふれあいを忘れずに』がそのままグループホームの理念として流用されているが、スタッフ間にもグループホームの理念としては分かりにくいとの意見があり、見直しの機運が高まりつつある。		職員全員の話し合いにより、グループホームとしてあるべき姿・目指すべき方向を示し、運営の指針となる「事業所独自の理念」が今年こそ設定されることを期待します。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記理念が食堂や職員事務室に貼り出されている。但し、それがどのように共有され、実践に活かされているかは見えにくい。理念の実践が具体的に推進・評価できる方策が検討されることを期待します。		
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の高齢化による体力低下と共に地域行事への参加回数は減少している。ただし、法人として自治会には加盟しており、町内の老人会の会議にも参加している。また中学校の職場体験の受け入れやボランティアによる日本舞踊の慰問もあり、地域との交流は進んでいる。		
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が個々に提出し、それを管理者が集約した全員参加の評価表が作られている。今後は作成過程で見いだされた課題について改善の取り組みが欲しい。外部評価結果は職員に知らされ、運営推進会議の場でも開示され有効に活用されている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	粘り強い参加の呼びかけにより町内副会長の参加が実現し毎回、多くの家族の参加の下、定期的開催している。地域との交流や行事予定の発表に加え、苦情・事故が具体的内容で報告され、更にその発生原因と今後の対策を明確にしており、家族の安心と信頼を得ていることは評価に値する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段、事業所単独では市町村との交流はほとんどないが、運営母体である医療法人としては市町村の研修・会議に参加する等の交流はある。ただし、地区包括センターとの働きかけもあり前回、運営推進会議に区役所介護保険課の参加がやっと実現した。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の近況報告に加え、毎月定期的に暮らしぶりや行事開催の様子をスナップ写真をふんだんに取り入れたホーム広報誌が家族に送付されている。更に担当職員のペン書きによる利用者個人の近況報告が別紙で届けられ、家族にとって安心なきめ細やかな報告がされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関にはご意見箱を設置しているが、主として要望・苦情は家族を交えて定期的に行うサービス担当者会議の話し合いの中で汲み上げている。寄せられた意見・苦情は苦情処理台帳に記載し職員全員で共有し再発防止に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現状ではスタッフの入れ替えはほとんどないが、職員異動による利用者へのダメージは十分に理解されている。やむを得ない異動がある場合は「傍らには常に馴染みのスタッフがおる状態」になるよう配慮している。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部より、ケアマネージャー研修等、社内外の各種研修や資格取得のスケジュールが提示され、職員のやる気・意欲を引き出す支援がされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状では、事業所として同業他社との定期的な交流はないが、管理者を含め職員は研修会等で知り合った他社職員と個人的な交流はある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族・本人との面接やホーム見学を通じて本人が馴染みやすい環境を整える配慮をしている。また、同一法人内のサービス利用者の入居の場合は、事前にホームに遊びに来てもらい、混乱のない状態で入居出来るよう配慮されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>かつて生け花の先生をしていた利用者からはその生け方を、また、人生の先輩として「この洗濯物は裏返して干すと色あせしない」等の生活の知恵を教わることも多々あり、同じ屋根の下で喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係が築かれている。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者とスタッフが共にゆったりと過ごせる時間帯を大切にして、会話の中から本人の思いや希望を把握するよう努めている。また、例えば、傍から見れば不要物と思われるものも「本人の思い出の品」として保管するなど本人の思いを大切にしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意向を基に、利用者1名に対し、2名の担当職員が課題分析を行い、専門性の問われる計画作成はケアマネが実施、そして関係者によるモニタリング・カンファレンスにより見直しを行う。各段階で必要な関係者が関わり意見やアイデアが反映される体制の下、介護計画は作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>短期で3ヶ月、最長でも6ヶ月の定期的な見直しを実施している。骨折や入院等の緊急的な変化には即、担当者・ケアマネ・管理者等の連携により必要な対策を講じ、現状に即した新たな計画が作成されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩、リハビリ、気晴らしも兼ねて、必要に応じて同一法人内のデイケアを訪問し、暮らしに変化をつける工夫をしている。また、過去には家族・本人の希望により法人外の病院への通院に長期間お連れした事もあり、その時々状況に応じて柔軟な支援がされている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期的な血液検査もあり、運営母体の病院がほぼかかりつけ医として移行している。過去、透析治療で約1年、外部の専門医にお連れした事もあり、本人・家族の希望に応じて本来のかかりつけ医にかかる支援もされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化・終末期の説明を行い理解を得ている。また、その状況が近づいたとき改めて、本人・家族・主治医等の関係者で対応を検討し、確認事項の同意書も交わしている。何処で終末期を迎えるかは「本人の意向を最重視する」が医師を始めとする関係者の共通認識となっている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃より、自尊心・羞恥心を傷つけない言葉がけをすよう心掛けている。職員に配慮の足りない言葉遣いがあったときは、その都度、個人的に注意をし、連絡ノートにも事例を記入し、申し送りの朝礼でも全員に徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・入浴時間等の一定の流れは決めているが、本人の体力やその日の状態を考慮し「休んだらどうですか?」「お風呂入ります?」等の問いかけをし、本人のペースや意向を大切に支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	すべて管理栄養士の指導の下、朝食・昼食は運営母体の病院厨房で調理された食事を配膳している。夕食はホーム内で食事を作り、体力や好みに応じて盛り付けをしたり、テーブル拭きをしたり、出来る人は下膳もしてもらっている。また、節句やひな祭りには特別料理を皆で楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の入浴日時は決められてはいるが、それにとらわれず「これからお風呂はいかがですか？」と問いかけて本人の意向を大切にしている。また入浴剤も「今日、どれにする？」と問いかけ利用者に決めてもらい、楽しい入浴ができるよう支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付け・洗濯物のたたみ、また園芸の得意な人には庭の木の枝落としをやらせよう等本人の体力と能力に応じての役割分担。また歌を歌う・貼り絵をする・絵画教室へ参加する等、本人の趣味や希望にそった楽しみごとの支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接の駐車場内の散歩、敷地内の病院に行く、洗濯物の取り込みに行く等、なるべく外出の機会を作っているが、利用者の体力低下・新型インフルエンザの影響もあり、従来よりは外出の機会が少なくなっている。以前は菊花展にも出かけたが今は職員だけでは実施が難しい状況である。		利用者の体力低下等により、現状では益々、外出支援が難しくなることが予測されます。お花見・紅葉狩り・外食ツアー等、年に数回の家族を交えての外出は利用者の楽しみ・生きる張り合いとなります。家族会を結成する等の実現可能な手段を検討し、全家族の更なる協力を得て、ミニツアー的の外出が再開されることを期待します。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	冬期は、保温のため玄関は閉めている。閉めることにより自動的に鍵が掛かる仕組みにはなっているが、鍵を掛けることの弊害は充分理解されている。暖かい時期、日中は玄関を開放している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導の下、消防訓練が行われている。1F・デイケアとの合同訓練が行われているが、地域住民の参加もあればなお理想的。地域の協力が得られるよう今後、働きかけが行われることを期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食・昼食は運営母体の病院の調理室で準備されるため栄養バランスは安心である。水分補給は午前・午後の各一回と入浴後に実施している。摂取量の過不足の目安は皮膚・舌・手のひらの状態観察でも行っている。必要に応じて、その状態を次の担当者に申し送りをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを中心に廊下・風呂・トイレ等、共有空間の整理整頓はされており清掃も行き届いている。日中の陽射しのキツイ時間帯は、リビングのカーテンを引き、明るさの調整をする等、居心地良く過ごせる配慮がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットと電動ベッドは備え付けされている。それ以外のテーブル・椅子等の備品やテレビ・写真立て等は使い慣れた馴染みのものが持ち込まれている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム博寿会ほほえみ

評価年月日 22 年 2 月 23 日

記入年月日 22 年 1 月 29 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 渡里 公一

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人全体としての理念（やさしさを大切にふれあいを忘れずに）をグループホームにも掲げている。広い意味では介護にもあてはまるが、分かりにくいという意見もある。		グループホーム独自の理念を作る。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	『やさしさを大切に、ふれあいを忘れずに』の理念は食堂の壁や、職員事務室に貼りだして掲げている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	過去に関連事業所でのケアの利用者からの入居があり、地域密着型の典型例として、運営推進会議等の報告において紹介したことがある。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	あいさつや雑談など日常的な付き合いはある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	法人として、自治会の一員であり、参加できそうな催し等があれば、入居者の状況を見ながら参加の検討など行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	医療法人の患者や、デイケアの利用者を中心に、連携を取る場合はある。相談があれば応じる様にしている。		認知症アドバイザーの資格を取得。地域へ認知症の正しい知識の理解を広めていく。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年同様、自己評価を全員が取組んでいる。 しかし、前回の外部評価で改善指摘を受けた所の取り組みは1つのみ改善した。(運営推進会議の地域、家族参加の強化)		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催しており、外部評価の実施、今回の予定についても報告している。昨年の改善で参加を促す取り組みにより、9名中7名は、ほぼ毎回参加されており、様々な意見交換がなされている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議の開催の報告はしているが、昨年は市からの参加はなかった。(平成22年1月の会議には参加頂いた)その他特に行き来する機会はなかった。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	特に学ぶ機会は設けてないが、入居者の方の中には、実際に司法書士の方が後見人の方、御家族が後見人手続きされた方がおられ、こういった制度の存在を理解するべく口頭ではあるがスタッフにも説明した。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルなどを作成している。また、研修会等に参加し知識を深めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、及び解約の際には十分な説明をしている。その後、疑問点等あれば、適切に答えており、こういった要件に関してこれまで苦情などない。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の意見抽出は難しいが生活の要望などはできる範囲で行なっている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	請求書と共に月の便りとして、全体の広報紙を同封して、担当者からの前月の状況報告を送付している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書で外部機関の紹介を謳い、ホームには、苦情箱を設置している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	今年度においては、入居者の介護量の増加などにより、業務内容変更の提案があり、反映した。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	介護部門を統括する主任は、デイケアとグループホーム全体を見ており、職員配置も1:3より手厚い1:4の日もある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>スタッフの入れ替わりはなく、馴染みの関係が保てている。スタッフの入れ替え時には配慮したい。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。</p>	<p>資格取得の励行などを行っている。また、年間計画として、虐待防止研修などの研修に参加している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>運営者は、取組んではいないが、管理者を含め職員は、個人的ではあるが他のグループホームの管理者、職員との交流はある。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ同士の会食など個々に行なっている。その他特に取り組みはないが、個人的に相談に乗る事もある。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>運営者は、各職員の勤務について把握している。資格取得を促すなどの声掛けは行っている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>家族等の気持ちを受け止めるように心掛けている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	十分な時間をかけ、聴くようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居に関しては即日対応が困難である為、その家族と相談し、同一法人の通所サービスなどで対応する事もある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	面接や見学は本人を含めて行なうようにしている。同一法人の通所サービス利用者が入居するケースなどは入居に対し、混乱を起こさないように事前にホームに招くなどしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何でも「してあげる」介護ではなく、残存機能を見極め、出来る事は行なうべく様に指導している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族は「もう1人のスタッフ」として色々な協力をお願いしている。運営推進会議の参加率の上昇により、介護の理解を深めていただいたと思われる。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会を促したり、外出や外泊などを促す事で、家族水入らずの時間を作ったりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族等の支援により、信仰、行きつけの美容室、または四季折々の外出や、外泊などしていただいている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>仲の良い方同士でとなりの席にするなど配慮している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>見かけた場合には会話などすることはある。亡くなられた方の家族がお見えになることもある。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>家族を交えてのサービス担当者会議を定期的開催し、本人の願い、家族の希望を確認している。特に個別性を重視している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>一人一人の生活暦はある程度把握しており、出来るだけ沿うようにと考えてはいる。しかし団体で行動する時間もあり、再現できている部分とそうでない部分が明確に分かれる。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>定期的にあセスメントするようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメント～計画作成～モニタリング～見直し等でスタッフが関われる体制にしている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	緊急処置的な変化は、日々の申し送りやケア、管理者、主任との話し合いや職員との連携で対応している。また必要に応じて家族との連絡も取ることがある。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特段の変化があれば、ケース記録や、個人ファイルへ記入している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの多機能は考え方が難しいが、法人内のデイケアとの合同での企画などはその都度検討している。また、以前には本来であれば家族が行なう他院通院において精神症状の強い方の通院にスタッフが同行するといった配慮を実施した事はある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	現在本人の意向や必要性に応じての左記の資源の活用はない。ボランティアに関しては、デイケアとの合同でのレクリエーションの実績はある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	グループホームとしては、同一医療法人内のケアマネと連携している。また日常的なケアのグループホームへの参加、合同での企画などはその都度検討している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの職員とは深く交流があり、様々な相談や運営推進会議の出席など協力してもらっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族、本人がかかりつけ医を希望される場合は、そちらへの通院をお願いしているが、殆どの場合当医療機関での管理を希望される。又場合によっては、基幹病院との連携をとる場合がある。(専門性の高い医療など)		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	現在はいないが昨年度は専門医への受診を支援した実績もある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日々の通院にて心身状況の把握や、緊急時の対応を協力してもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時の様子などの報告を受けたり、十分な連絡は取っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>終末期に差しかった場合、ご本人、家族、主治医、スタッフとともにその後の対応等を検討するという旨の同意書を改めて頂戴し、家族にもいつかその日への心の準備をして頂いている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>かかりつけ医、看護師等より細やかな指示をもらいながら、最終的に当ホームにて最期を迎えた方に対する対応を例に出すと終末期においてはやはり、本人の意向を叶えるという点で一致している。具体的にはその都度。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>住み替えは今のところないが、あれば配慮していく。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>自尊心、羞恥心に配慮した言葉かけを行なうようにしているが、「便」「おしっこ」など、まだまだ配慮の足りない言葉が聞かれる。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>様々な場面において、本人に選んでいただく様にしている。その際には分かりやすい言葉を使用している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>体力面を考慮し、活動する時間、休む時間を個々に決めたりしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は決められた日に実施している。イベントなどで、お化粧をされたりする事もある。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食、昼食は母体である医療法人の厨房に依頼している。夕食は厨房より食材のみいただき、入居者様にはできる範囲で調理、盛り付けに参加していただいている。また、行事の際には、特別な料理も出る。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコを吸う方はいない。お酒はこちらからすすめると召し上がる方もいるが、ご自分から欲する方はいない。お菓子など要望を聞く事もあったり、本人が好きなおやつを買いに行く支援なども行なっている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の支援が必要な方には個別的にトイレ誘導等を行なっている。以前はチェック表をつけていたが、失敗の減少などによりチェック表は中止している。不潔行為防止の為、トイレ内に立ち入らせてもらっている方もおり、「気持ち良く…」といった点には疑問が残る。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	乾燥肌の方、または、排泄の失敗の頻度により、週単位で入浴回数を調整している。入居者の希望を聞くこととしては「これから入浴はいかがですか」といった問いかけをし、本人にどうするかを決めてもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者の様子を見ながら、適時休んでもらったりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	役割としては主婦であった方たちには家事を手伝ってもらったりしていたり、楽しみとしてはお1人ではあるが、買い物の支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人で管理している方が2名おられる。お1人はご本人の安心のために所持しており、実際に使用することはない。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩など行くこともしばしばある。しかし、介護量の増加により、外出支援を行なうホーム内が手薄になる 事故の可能性が高まる、といった事も懸念される為、そういったことがきちんと予防される仕組みを作る必要である。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族との外出支援は促すようにしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話がかかってくることもあり、また入居者が不安になった時に家族に電話を掛けて安心していただくといった取り組みも行なっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や友人の訪問は日常的にある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>退院後の混乱の対応としてこういった行為が予想されるケースがあり、家族にも同意を書面にていただいた。実際には行なう事はなく傾聴などの対応で終息していった。正しい理解はできている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は夜間以外施錠してはいない。この時期は寒いので出入口は閉めているが、閉めると施錠がかかる仕組みなので仕方がない。</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日常的に介護主任や管理者から注意を促しており、スタッフが取り組んでいる。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物類のみ管理させてもらっている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故報告書、ひやりはっと報告書などで再発防止に取り組んでいる。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にやっている。</p>	<p>心マッサージなどの基本的知識は習得している。急変時には医療連絡を最優先としている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回消防避難訓練を実施している。また、母体の医療法人からの連携体制も取れている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状態が緩やかに、あるいは急激に変化した場合など、起こりうる事故のリスクとその予防策についての説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	主治医との連携体制が整っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の数も多く、全ての職員が薬の効能等の全てを把握できていないが、個別にまとめたファイルがあり、その中を確認したら把握出来るようになっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	現在排便不安定な方もおられ、個別に検討中。できるだけ食品や水分による排便を促したいという方針には職員は一致している状況。だが、極度の便秘の方は、下剤を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを行なっている。以前は、それでも口臭に強い方には、個別にマウスウォッシュ(口臭除去)を使用していたこともある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	定期的な水分補充・バランスの取れた食事（管理栄養士が献立作成）の提供と体重測定は実施している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種や手洗い、うがいを積極的に行なっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日のまな板の漂白など充分に行なっている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花を飾ったり、クリスマスシーズンにはイルミネーションを施したりと、出入りしやすい環境にしている。		花壇などの充実を図り、アットホームな雰囲気を出していく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適な環境の提供(室温、湿度)をしているが為に、逆に夏冬問わず、季節感が分かりにくいのではと思われる。雪でも降れば、外を見て寒さを想像することは可能であると思われるが、その場かぎりといった感は否めない。		季節の花などを飾るようにする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳の場所、リビングの椅子、と形態が違う場所はある。入居者は畳部屋を昼寝の場所として使用している方もいる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には使用していたなじみのものを持ってきていただくようにしたり、入居者本人と家族またはスタッフが相談しながら模様替えをしたりする事もある。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子の通りの道の配慮や、つたい歩きが出来るような家具の配置をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自己決定を促す場面などにおいては、分かりやすい二択を提示するなどの配慮をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダはせまく、何かをするには適していない。		